

(別紙2)

審査の結果の要旨

論文題目：伝統中国における合夥経営の史的研究

氏名：鄭址鎬

「合夥」とは、資本と労力を出し合って共同事業を行う伝統中国の特徴的な事業形態であり、特に商工業部門で大きな役割を果たした。本論文は、その「合夥」の諸形態と歴史的变化につき、総合的な検討を行ったものである。作者は、戦前の実態調査や戦後の経済史学界における合夥研究の成果を十分に踏まえたうえで先行研究の問題点を指摘し、各業種を包含する広い範囲において、また明代から民国時代を通ずる長期的視野のもとで、合夥の全体像をとらえようと試みている。

第一章は、伝統中国における合夥を概念的に整理し、資本出資と経営・労力提供のあり方によって類型別の分類を行っている。第二章では、農業などの第一次産業についても検討を行い、従来主に研究されてきた商工業の分野のみならず、農業なかんずく果樹などの商業的農業や林業・鉱業でも合夥の観念をもつ共同事業が広範に行われていたことを指摘する。第三章は、合夥資本の構成を自己資本と借入資本に分けて検討するとともに、合夥経営の大きな特色をなす「身股」すなわち労力出資による利益配分権につき、考察を行う。第四章は、合夥の性格を示す重要な特徴とされながら従来不明確であった債務負担の問題をめぐって幅のある実態を明らかにする。第五章は、複雑な経営形態をもつ大規模企業として注目されてきた四川井塩業を取り上げ、合夥という観点から契約文書を分析して股分の取引関係を解明している。

史料の公開状況からして止むを得ないことであるが、本論文は、個別企業の経営史的分析には踏み込んでいない。また、合夥に関わる他の経済現象との関連や、地域的差異・歴史的变化の分析において、より詳細な検討が望まれる部分もある。しかし分散的な資料を網羅的に利用して身股や債務負担について着実な分析を行っている点、また、広い視点と長期的な視野で合夥の総合的な全体像を描いている点などは、今後の合夥研究の確実な基礎を築いたものとして高く評価できる。よって審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位に相当するものと判断する。